

1. 現状

(1) 図書館網の現状

本市では、より効率的、効果的な図書館サービスの提供と図書館運営を図るため、中央図書館をトップに、その下に地区図書館（4館）、さらに地域に分館（11館）を配置するとともに、それぞれが役割分担しながら、図書館網を形成してきた。

さらに、近隣市町との広域利用や大学図書館の活用を推進することを通して、サービスの充実を図っている。

区分	役割	図書館数	1館あたり	
			規模	蔵書数
中央図書館	図書館網の中核として、貸出やレファレンスのサービスを提供するとともに、市内の地区図書館、分館を統括する。あわせて、ボランティアの育成、派遣を行う。全市の統括図書館。	1	4500㎡	46万冊
地区図書館	区民を中心に貸出、予約、読書案内、簡易なレファレンスなどのサービスに加え、各種講演会、講座などを実施する。あわせて各区内等の所管分館との調整。	4	1500㎡	17万冊
分館	住民の身近にあって、貸出・予約などのサービスに加え、親子が気軽に立ち寄れる環境を整えるとともに、読み聞かせ、映画会を実施するなど地域と密着した取り組みを実施。	11	400㎡	4万冊

(2) 図書館機能・サービスの現状

図書館の機能・サービスについては、平成14年11月の答申（「生涯学習拠点としての図書館のあり方について」）の中で、「図書館ネットワークの構築」「市民の生涯学習活動を支える図書館」「こどもの読書活動を推進する図書館」「誰もが使いやすい図書館」「市民参画型図書館」を5つの視点に、継続事業を含め51施策の推進を提案した。

この結果、14年度以降、下関市との相互利用、開館時間の延長、ボランティアの組織化・ネットワーク化など15施策に新たに取り組み、その進捗率も88%となるなど機能・サービスの充実に努めている。また、平成17

年度からは地区図書館に指定管理者制度を導入するなど、図書館運営の新たな取り組みも実施されてきた。

【前回答申に関する各事業の進捗状況（21年3月現在）】

2 . 利用状況と市民ニーズ

(1) 利用状況

ア . 利用者数

ここ10年間の利用者数の推移をみると、「そねっと(10年8月)」、「若松図書館(12年4月)」の新規開館もあって、12年度以降は、60万人台を維持してきたが、16、17年度の中央図書館大規模改修による閉館の影響もあって減少したものの、18年度以降は増加に転じ、19年度では、67万人とここ10年間で最高の利用者数となっている。

一方、図書館別では、新規開業した「若松図書館」や「そねっと」での増加が著しく、それぞれ対10年度比で67.6%増、40.6%増となっている。また、八幡南分館も、28.6%増となっている。一方、折尾分館は、水巻町図書館(12年9月開業)の利用もあってか、ここ10年間で約30%減少している。(図書館関連資料P6参照)

イ . 貸出冊数

ここ10年間の貸出冊数の推移をみると、利用者数の推移と同様の傾向を示しており、18年度以降は増加に転じ、19年度では290万冊が貸し出されている。(図書館関連資料P6参照)

図 1 図書館別の貸出利用者数の推移(個人貸出)

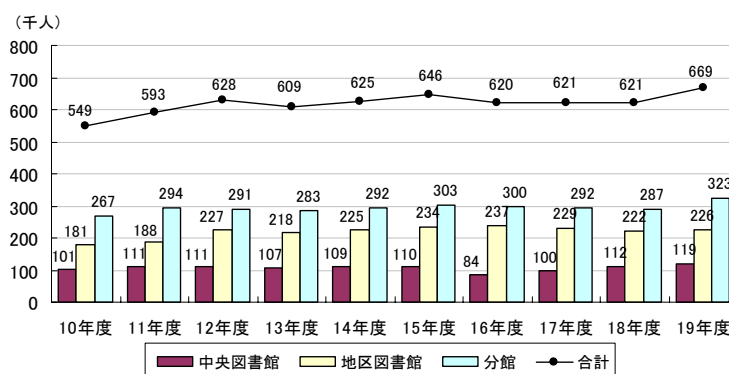
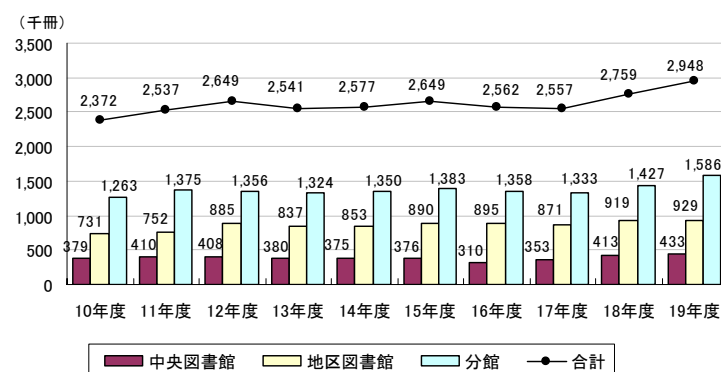


図 2 図書館別の貸出冊数の推移(個人貸出)



(2) 市民意識 (アンケート)

今回、「これからの図書館のあり方」を検討するにあたり、一般市民、図書館利用者、小・中・高校生などを対象に、読書の実態や図書館利用の状況や図書館選択の要因、現行の配置状況に対する満足度、望まれる機能など 18 項目についてアンケートを実施した。

【アンケートの概要】

区分	対象	実施数	回答数	実施期間
一般市民	20 歳以上 無作為郵送	3,000 人	932 人 (31.1%)	H20.6.23 ~7.5
図書館利用者	17 館利用者 各館 25 人	425 人	411 人 (96.7%)	H20.7.2 ~7.9
小中高校生 (小中各18校 高7校)	小 6、中 3、 高 3 各 1 学 級	1,415 人	1,415 人 (100%)	H20.7.2 ~7.9

ア . 読書実態

区分	読書数	主な読書方法
一般市民 (資料 P8,9)	<ul style="list-style-type: none"> ・「月 1~2 冊」が最も多く、「読まない」も 2 割。 ・年代別では、20 代で「読まない」が 26%。その後、40 代まで読書数が高まる傾向。50 代以降は「よく読む人、読まない人」に分かれる傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書店等で購入」が 6 割。 ・「図書館活用」は 2 割。 ・年代別では、図書館活用は 20 代が最も少なく、40 代の約半分。 ・「インターネット利用」は 30 代が多い。
図書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・「月 10 冊以上」が最も多く、全体の 6 割以上が 5 冊以上を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館活用」が 8 割。「書店等で購入」が 1 割。
小中高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・「月 1~2 冊」以上読む小学生は 8 割、中学生は 6 割、高校生は 3 割と読書活動が低下。 ・「読まない」は、中学生で 25%、高校生で 35%。高校生では 7 割が「少し読む」か「読まない」と回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書店等で購入」が小学生 4 割、中高校生 7 割。 ・「図書館活用」は、学校図書館を含めると、小学生 5 割、中学生 1 割、高校生 2 割。 ・「インターネット利用」は中高生になるにつれ増加。

イ．図書館活用の実態

区分	登録状況	この1年の利用状況
一般市民 (資料 P10)	・4割が登録。半数以上が未登録	・4割超が図書館を利用した。(半数以上が利用していない) ・男女別では、女性(49.0%)が男性(33.9%)を上回っている。 ・年代別では、30、40代が5割を超えているが、年代が上がるにつれて利用率が低下。
図書館利用者	・ほぼ10割が登録。	10割が利用している。
小中高校生	・高校生は5割が登録。 (小中学生は設問なし)	・小学生のほとんどが図書館を利用。その約7割が「学校図書館」。 ・中学生では7割以上が図書館を利用。その4割が「学校図書館」。 ・高校生では、7割が図書館を利用。

ウ．図書館の利用頻度

区分	図書館の利用頻度
一般市民	・「月に1,2回程度」が50.2%、次いで「半年に1,2回程度」が21.6%。 ・20代のみ「月に1,2回程度」と「半年に1,2回程度」が同程度。 ・性別では、男性で「週に1,2回程度」が19.4%と女性の7.9%を大きく上回っている。
図書館利用者	・「月に1,2回程度」が44.5%、次いで「週に1,2回程度」が42.5%。 ・性別では、男性で「ほぼ毎日」は12.8%と女性の4.8%の約3倍となっており、「週に1,2回程度」でも男性が51.1%と女性の37.5%を上回っている。
高校生	・「月に1,2回程度」が36.2%、次いで「半年に1,2回程度」が30.0%。

エ．図書館の利用状況

区分	図書館での平均滞在時間	利用する日・時間帯
一般市民	・「30分～2時間」が64.8%、次いで「30分未満」が28.3%。 ・年齢別では20代で滞在時間が長くなっている傾向がある。	・「平日」が54.9%、「休日」が32.4%。 ・年齢別では30代以下で「休日」の利用が多く、40代以上では「平日」の割合が高い。60代以上では「平日」が8割超。

図書館利用者	一般市民と同様の傾向。	一般市民と同様の傾向。
高校生	・「30分～2時間」が43.1%、次いで「半日くらい」が41.5%。	・「休日」が84.6%。

オ．利用する図書

区分	図書館で利用する図書の種類
一般市民 (資料 P11)	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学」が約6割で、性別・年齢別・地域別問わず最も多い。次いで「児童書」「家政学」が多い。 ・性別では、文学に次いで、男性は「歴史」「社会科学」、女性は「家政学」「児童書」が多い。 ・年齢別では、20代で「社会科学」、30代「児童書」、50代以降「歴史」や「芸術」の割合が高くなる傾向。
図書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学」が約7割で、性別・年齢別・地域別問わず最も多い。次いで「児童書」「家政学」「雑誌」「歴史」が多い。 ・性別では、一般市民と同様の傾向。 ・年齢別では、40代まで「児童書」「家政学」、50代以降「歴史」や「芸術」の割合が高くなる傾向。また、総じて「雑誌」の利用が高い。
小中高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高校生で「文学」が約6割、小学生では「歴史」が約5割。